

休みの日の兼職は機構に関係ないの？

謝金や報酬のある兼職の場合、兼職を行っている時間分の賃金がカットされています。その際に有給休暇取得して兼職を行うと賃金をカットしないということですが、兼職への往復の途中で事故などに関する取扱いについて機構側へ確認致しました。その結果、有給休暇取得時のみならず、休日などに行う兼職に関しても、往復の途中で事故は労災には適用されないというものでした。兼職とは、機構の業務に有益である場合に許可されるものと考えられ、機構の業務の一部と考えられます。その業務に出向く途中で事故があったとき、勤務時間中に行う兼職、つまり外勤や出張で行っている兼職では労災を認めながら、全く同じことを行っているにも関わらず、有給休暇取得時、休日、おそらくは勤務時間外でも労災にはあたらないと言っているわけです。機構は休日に労災が適用される形で兼職を行いたいならば、休日の振替を行って、休日を勤務日として行う必要があるとしていますが、兼職だけのためにわざわざ休日に9時から17時半まで勤務しなくてはならなくなってしまいます。また、17時半以降の時間外に兼職する場合はどうすれば良いのでしょうか。実際に兼職を行っている方は注意が必要です。

この問題に関連して前期でも指摘しましたが、兼職その他での謝金や報酬を個人的に受けることを禁止し、全て、機構の職務として行い、報酬は機構に入れることとすれば、このような矛盾は生じません。兼職へ出向く際に事故が起きて、大きな問題となる前に、矛盾が生じない状態に早急に変更するべきです。

第95回原研労組定期大会公示

公 示

2008年8月22日

日本原子力研究開発機構労働組合
中央執行委員長 岩井 孝

組合規約第19条に基づき、第95回定期大会を下記のとおり開催します。

記

大会期日：2008年9月5日（金）13:30～17:00

開催場所：村松コミュニティセンター（東海村） 2階 会議室

議 題：第1号議案 第59期の運動の総括と第60期の運動方針

第2号議案 第59期財政報告

第3号議案 第60期財政方針

以 上

組合員へのパワーハラスメント問題が発生。組合で対応！

核サ研所属の職員が職場の上司から、長年にわたり職場で、仕事に関連することだけでなく、私生活にかかわることまで誹謗中傷を受ける、パワーハラスメントを受けていました。この職員は原研労の組合員であったため、組合が対応し、8月6日に窓口で機構側へ実態の調査を要求致しました。8月8日には加害者から謝罪があったということです。8月11日には機構から実態に関して組合にも報告がありました。パワーハラスメントなどが発生する場合、多くの場合は訴えにくい立場の方々が被害にあわれます。機構側は規則があるので、その規則に則って手続きを行おうとしますが、原研労は被害者の方々が訴えやすい環境を作ることが大事であると考えており、今回のように、組合員の被害者の方に代わって機構に実態調査などを要求致します。また、被害者の方々の立場に立った対応をさせていただきます。働きやすい職場の実現を目指しましょう。

ミニ「原爆写真展」開催中
原科研食堂横の掲示板で、
8月4日から8月29日まで

東海地区 分会長会議を開催します。

8月25日(月)の昼休み、夕方、26日(火)の昼休みの3回、組合事務所にて行います。

昼休みは12:20から、夕方は18:00から行います。

分会長さんは、どちらか都合の良い日に出席してください。

左のように第95回定期大会を開催致します。
定期大会に向けて、活発な分会討議をすすめよう！

【労働組合事務所】 Tel. 5413, 5414 Fax. 029-284-0568

e-mail: genkenrouso@muse.ocn.ne.jp URL: <http://orange.zero.jp/genkenrouso.wing/>

最近のあゆみ速報等を見るためには、新しい原研労組のURLを登録して下さい。

(略)

原水爆禁止世界大会・広島大会に参加して

中央執行委員長 岩井 孝

今から 63 年前、1945 年 8 月 6 日広島に、9 日長崎に、原子爆弾が投下され、子ども、女性、お年よりの区別なく、一瞬にしておおぜいの方が亡くなるとともに、その後も今日に至るまで多くの方の命を奪い、つらい苦しみを与え続けています。戦争の悲惨さをきわだたせて感じさせるのが、原子爆弾という悪魔の兵器による被害です。三たび使われないようにしなければなりません。

私はこれまで、労働組合の派遣として 2 回、子どもたちを連れて 3 回、原水爆禁止世界大会に参加してきました。今年も 8 月 3 日から 6 日にかけて、世界大会の広島大会に、学童クラブの 5・6 年生の子ども 6 人と、親 2 名、そして私の計 9 名で参加してきました。参加するたび、人としての心を深いところから揺さぶられます。

この世界大会参加に先立ち、核兵器禁止を社会に広く訴え、大会の成功をめざして全国で取り組まれ、原研労組としても取り組んだ平和行進にも、6 月 29 日、雨の中、那珂湊駅から海門橋のコースと大洗町のコースに参加しました。

世界大会開会総会には、日本はもとより、世界中から 7000 名近い参加がありました。広島市の秋葉市長が、「市民を核兵器の恐怖から救うためには核兵器廃絶しかない。核兵器廃絶が多数派だ」と明確に述べられたのが印象的でした。

広島学校の先生たちが中心となった実行委員会が、この大会参加の親子のために開催してくれる、「似島少年少女のつどい」への参加に特別の思いを感じ、これまでも子どもたちと参加するようにしてきました。広島本土から船で 20 分程度の距離にある似島は、検疫所ということで、当時は軍医や衛生兵がいて、施設も薬もあり、原爆の被害もなかったため、原爆投下直後から重症の人達が次々と運び込まれました。その人数は 1 万人を軽く超えただろうと言われています。しかし、多くの方は手当てのいかいなく亡くなり、馬用の焼却炉で焼かれ、あるいは島のあちこちに掘られた穴にそのまま埋められました。平成 16 年の発掘調査でもまだ多くの人骨が掘り出されています。今年も 8 月 5 日、晴天でもものすごく暑い中、その島の中を歩いて「ここで大量の人骨が見つかった」「これが人を焼いた馬用の焼却炉の一部だ」などという説明を受けました。実際にその当時、運び込まれたおおぜいの患者の面倒をみて、どんどん目の前で亡くなり、穴を掘って埋めたという方の話や広島市内で被爆した方の話を聞きました。いまでも、自分の足元にその時に亡くなった方々の遺骨が埋まっているのではないかと思うと、なんともいえない気持ちになります。子どもたちも真剣に話を聞き、慰霊碑前での慰霊祭では深々と黙祷をしていました。

原子力の平和利用に携る者として、原子力の究極の悪用である核兵器は一刻も早く全廃すべきと考えています。その思いを、個人としてだけではなく、労働組合という組織としても声を大きくして訴えていくことが何よりも大切なことです。来年は、若い組合員が参加できるよう、労働組合としても運動を強めたいと考えています。